

洞院殿とぞ申しさて嘉禎三年三月に今の殿の聳の左大臣兼經、岡に攝政讓て、同四年四月廿五日に年四十六にて出家し給、其後も威光は益壯りに御坐しけり、出家の人の參内する事は、御堂の關白藤原平太政入道清盛などの外は、いたく例もなければ、車の文には蓮花をして、行粧ゆゝしめて參内し給、

〔神皇正統記四條院〕諱ハ秀仁、後堀河の太子、御母藻壁門院藤原尊子、攝政左大臣道家の女なり、壬辰の年即位、中一とせばかりありて上皇後崩れ給ひしかば、外祖にて道家の大臣王家の權を執りて、昔の執政の如くにこそありしか、東國に仰ぎし征夷大將軍賴經もこの大臣の胤子なれば、文武一にて權勢おはしけるとぞ、

〔十三朝紀聞後水尾〕寛永六年十月、帝令傳旨於幕府曰、遜位以二女明繼之、大將軍德川大驚以自遷都、以來、久不女主、至今、女宮踐極、後世曰、外戚威之所爲、乃諫之不聽、

皇室依外戚

〔大鏡後一條〕つぎのみかど當代、御いみなあつなり、中おなじみかど、申せども、御うしろみおほくたのもしくおはしまし、御おほちにて、たゞ今の入道殿下藤原出家せさせ給へれど、よのおや、一切衆生、一子のごとくはぐみおはします、第一の御をちにて、たゞ今の關白左大臣賴通

一天下をまつりごちておはすべき、つぎの御をち通と申は内大臣にて左大將かけておはす、あるひは東宮大夫宗頼、中宮權大夫宣能、中納言家長など、さまざまにておはします、かたのごと

くにおはしまさせば、御うしろみおほくおはします、むかしも今もみかどかしこしと申せど、臣あまたしてかたふけたてまつるにはかたぶき給ふものなり、さればたゞ一天下は、わが御うしろみのかぎりにておはしませば、いとたのもしく、めでたき事なり、むかし一條の院の御なやみのをりおほせられけるは、すべからくは次第のまゝに、一のみ親王を敦康を春宮とすべけれど、うしろみすべき人なきにより、思ひかけず、さればこの二宮をばたて奉るなりとおほせられ